

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-305523 ✓  
 (43)Date of publication of application : 28.11.1997

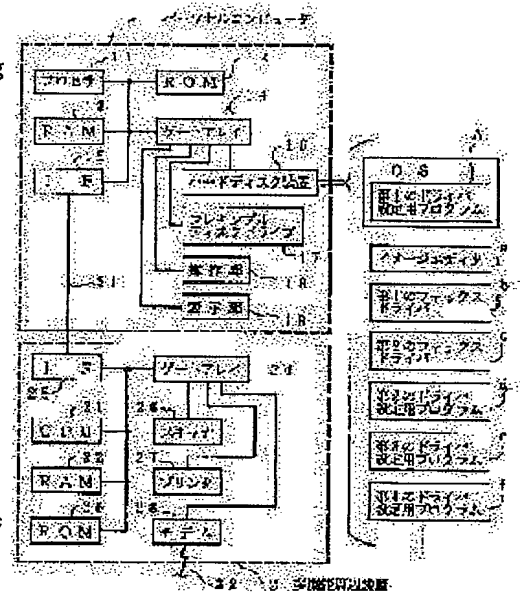
(51)Int.Cl. G06F 13/10

(21)Application number : 08-124469 (71)Applicant : BROTHER IND LTD  
 (22)Date of filing : 20.05.1996 (72)Inventor : FUNAHASHI HIROYUKI

## (54) INFORMATION PROCESSOR AND STORAGE MEDIUM

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To exactly perform the control operation of desired equipment without requiring labor for selecting any prescribed driver through complicated switch operations to an operator when letting the control means of an information processor perform the control operation of this equipment.  
**SOLUTION:** Concerning the information processor, a storage means 16 for storing any desired program and a control means 11 for performing the control operation based on the program stored in this storage means 16 are provided and the storage means 16 stores a 1st program A for driver setting for selecting the program of a 1st driver (b) previously specified when letting the control means 11 perform the control operation of the desired equipment. The storage means 16 stores a 2nd program (d) for driver setting different from the 1st program A for driver setting and when executing the control operation of this equipment, the control means 11 selects the program of a 2nd driver (c) designated by the 2nd program (d) for driver setting.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 18.09.1998  
 [Date of sending the examiner's decision of rejection] 12.11.2002  
 [Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]  
 [Date of final disposal for application]  
 [Patent number]  
 [Date of registration]  
 [Number of appeal against examiner's decision of rejection]  
 [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]  
 [Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-305523

(43) 公開日 平成9年(1997)11月28日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 6 F 13/10

識別記号

3 3 0

庁内整理番号

F I

G 0 6 F 13/10

技術表示箇所

3 3 0 B

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-124469

(22) 出願日 平成8年(1996)5月20日

(71) 出願人 000003267

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市長区瑞穂区苗代町15番1号

(72) 発明者 舟橋 浩之

名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 ブラザー

工業株式会社内

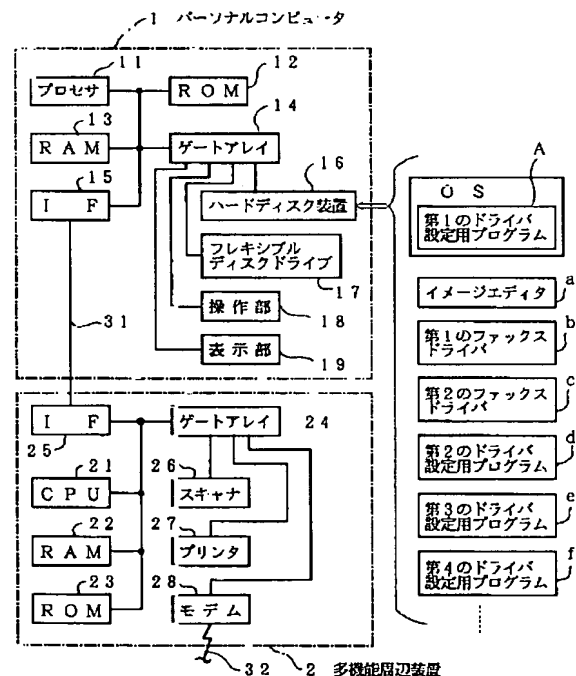
(74) 代理人 弁理士 吉田 稔 (外2名)

(54) 【発明の名称】 情報処理装置、および記憶媒体

(57) 【要約】

【課題】 情報処理装置の制御手段に所望の機器の制御動作を行わせる場合に、オペレータが煩雑なスイッチ操作によって所定のドライバを選択するような手間を要することなく、前記機器の制御動作を的確に行うことができるようにする。

【解決手段】 所望のプログラムを記憶するための記憶手段16と、この記憶手段16に記憶されているプログラムに基づいた制御動作を行う制御手段11とを具備し、記憶手段16には、制御手段11に所望の機器の制御動作を実行させるときに予め特定された第1のドライバbのプログラムを選択させる第1のドライバ設定用プログラムAが記憶されている情報処理装置であって、記憶手段16には、第1のドライバ設定用プログラムAとは別の第2のドライバ設定用プログラムdが記憶されており、制御手段11は、前記機器の制御動作を実行するときには、第2のドライバ設定用プログラムdによって指定されている第2のドライバcのプログラムを選択するように構成されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 所望のプログラムを記憶するための記憶手段と、この記憶手段に記憶されているプログラムに基づいた制御動作を行う制御手段とを具備し、前記記憶手段には、前記制御手段に所望の機器の制御動作を実行させるときに予め特定された第1のドライバのプログラムを選択させる第1のドライバ設定用プログラムが記憶されている情報処理装置であって、

前記記憶手段には、前記第1のドライバ設定用プログラムとは別の第2のドライバ設定用プログラムが記憶されており、

前記制御手段は、前記機器の制御動作を実行するときには、前記第2のドライバ設定用プログラムによって指定されている前記第1のドライバのプログラムとは別の第2のドライバのプログラムを選択するように構成されていることを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】 前記記憶手段に記憶されている複数のドライバのプログラムの各々には、プログラム内容を示すインデックスが付されており、

前記制御手段は、前記第2のドライバ設定用プログラムによって指定されている第2のドライバのプログラムを選択できないときには、実行すべき処理内容を示すインデックスが付されているドライバのプログラムを検索して選択するように構成されている請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】 情報処理装置の制御手段に所望の機器の制御動作を実行させるときに前記情報処理装置の記憶手段に予め記憶されている第1のドライバ設定用プログラムによって指定されている第1のドライバのプログラムに代えて、この第1のドライバのプログラムとは異なる内容の特定の第2のドライバのプログラムを前記制御手段に選択させる第2のドライバ設定用プログラムが格納されていることを特徴とする記憶媒体。

【請求項4】 前記制御手段が前記第2のドライバ設定用プログラムによって指定されている第2のドライバのプログラムを選択できないときには、実行すべき処理内容を示すインデックスが付されているドライバのプログラムを前記制御手段に検索させて選択させる第3のドライバ設定用プログラムが格納されている請求項3に記載の記憶媒体。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、パーソナルコンピュータなどの情報処理装置、およびその情報処理装置を動作させるためのプログラムを格納した記憶媒体に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】周知の通り、たとえばパーソナルコンピュータは、OS（オペレーティングシステム）とアプリケーションソフトとのプログラムによって所望の処理を

実行するように構成されている。このようなパーソナルコンピュータにおいて利用されるOSのプログラムは、たとえばパーソナルコンピュータに接続されているプリンタ装置やファクシミリ装置を駆動させる場合に、パーソナルコンピュータのプロセッサが、特定のデフォルトのプリンタドライバやファクストドライバのプログラムを選択する内容となっているのが一般的である。このように、OSによってデフォルトのプリンタドライバやファクストドライバのプログラムを選択するように設定しておけば、これらのドライバに適合するプリンタ装置やファクシミリ装置を利用する場合に、プリンタ処理やファクシミリ通信処理を実行する都度、オペレータがそれに見合ったドライバを選択する操作を逐一行う必要が無くなる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のパーソナルコンピュータでは、実際の使用に際して、次のような問題があった。

【0004】すなわち、パーソナルコンピュータには様々な周辺装置が接続されるが、これら周辺装置は、必ずしもOSによって指定されているドライバのプログラムに適合するものであるとは限らない。具体的には、パーソナルコンピュータにプリンタ装置やファクシミリ装置を接続して使用する場合に、このプリンタ装置やファクシミリ装置が、OSで指定されているデフォルトのドライバの内容に適合しない場合がある。

【0005】その一方、従来では、上記のようにデフォルトのドライバに適合しないプリンタ装置やファクシミリ装置がパーソナルコンピュータに接続されているにも拘わらず、これらプリンタ装置やファクシミリ装置を駆動させるときには、OSのプログラムによってデフォルトのドライバがプロセッサによって選択されることとなる。

【0006】従って、従来では、パーソナルコンピュータにデフォルトのドライバと適合しないプリンタ装置やファクシミリ装置などを接続している場合において、プリンタ処理やファクシミリ通信処理を実行するときには、オペレータがデフォルトのドライバが選択されている状態をキャンセルするスイッチ操作を行った後に、パーソナルコンピュータに接続されているプリンタ装置やファクシミリ装置に適合する他のドライバを選択して設定するスイッチ操作を行う必要が生じていた。その結果、従来では、このような一連のスイッチ操作が非常に面倒なものとなっており、使い勝手が悪いという不具合があった。

【0007】尚、従来では、上記のような不具合をできる限り解消する手段として、オペレータのスイッチ操作によって所定のドライバが一旦選択されると、その旨のデータを記憶手段に記憶させておき、その後プリンタ装置やファクシミリ装置を再度動作させるときには、以前

に選択されたドライバをプロセサによって選択させる手段が適宜採用されている。ところが、このような手段であっても、プリンタ装置やファクシミリ装置を初めて動作させる場合、あるいは記憶手段に記憶されているデータの消去などがなされたような場合には、やはりOSによって指定されているデフォルトのドライバが選択されることとなる。従って、このような手段を採用しても、上述した不具合を適切に解消するには到らない。

【0008】本発明は、上記の点に鑑みて提案されたものであって、パーソナルコンピュータなどの情報処理装置の制御手段に所望の機器の制御動作を行わせる場合に、オペレータが煩雑なスイッチ操作によって所定のドライバを選択するような手間を要することなく、前記所望の機器の制御動作を的確に行うことができるようにすることをその目的としている。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、請求項1に記載した発明の情報処理装置は、所望のプログラムを記憶するための記憶手段と、この記憶手段に記憶されているプログラムに基づいた制御動作を行う制御手段とを具備し、前記記憶手段には、前記制御手段に所望の機器の制御動作を実行させるときに予め特定された第1のドライバのプログラムを選択させる第1のドライバ設定用プログラムが記憶されている情報処理装置であって、前記記憶手段には、前記第1のドライバ設定用プログラムとは別の第2のドライバ設定用プログラムが記憶されており、前記制御手段は、前記機器の制御動作を実行するときには、前記第2のドライバ設定用プログラムによって指定されている前記第1のドライバのプログラムとは別の第2のドライバのプログラムを選択するように構成されている。

【0010】請求項2に記載した発明の情報処理装置は、請求項1に記載の情報処理装置であって、前記記憶手段に記憶されている複数のドライバのプログラムの各々には、プログラム内容を示すインデックスが付されており、前記制御手段は、前記第2のドライバ設定用プログラムによって指定されている第2のドライバのプログラムを選択できないときには、実行すべき処理内容を示すインデックスが付されているドライバのプログラムを検索して選択するように構成されている。

【0011】請求項3に記載した発明の記憶媒体は、情報処理装置の制御手段に所望の機器の制御動作を実行させるときに前記情報処理装置の記憶手段に予め記憶されている第1のドライバ設定用プログラムによって指定されている第1のドライバのプログラムに代えて、この第1のドライバのプログラムとは異なる内容の特定の第2のドライバのプログラムを前記制御手段に選択させる第2のドライバ設定用プログラムが格納されている。

【0012】請求項4に記載した発明の記憶媒体は、請求項3に記載の記憶媒体であって、前記制御手段が前記

第2のドライバ設定用プログラムによって指定されている第2のドライバのプログラムを選択できないときには、実行すべき処理内容を示すインデックスが付されているドライバのプログラムを前記制御手段に検索させて選択させる第3のドライバ設定用プログラムが格納されている。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好ましい実施の形態について、図面を参照しつつ具体的に説明する。

【0014】図1は、本発明に係る情報処理装置の具体例としてのパーソナルコンピュータと、これに接続された多機能周辺装置とのハード構成、およびパーソナルコンピュータの記憶手段にインストールされるプログラムの内容の一例を示す説明図である。

【0015】パーソナルコンピュータ1は、いわゆるマルチウインドウを用いたGUIを採用しており、複数のアプリケーションソフトを同時に起動させておくことが可能である。多機能周辺装置2は、ファクシミリ、プリンタ、イメージスキャナ、およびコピー機などの複数の機能を有している。

【0016】パーソナルコンピュータ1は、プロセサ11、ROM12、RAM13、ゲートアレイ14、インタフェース15、ハードディスク装置16、フレキシブルディスクドライブ17、操作部18、および表示部19を具備している。プロセサ11、ROM12、RAM13、ゲートアレイ14、およびインタフェース15は、バス線により相互に接続されている。バス線は、データバス、アドレスバス、および制御信号線を含むが、これは後述する多機能周辺装置2のバス線についても同様である。

【0017】プロセサ11は、ハードディスク装置16にインストールされている各種のプログラムに基づいて動作し、情報処理を行う。ROM12やRAM13は、各種のデータやプログラムなどを記憶するのに用いられる。ゲートアレイ14は、ハードディスク装置16、フレキシブルディスクドライブ17、および操作部18の各々とプロセサ11との間のインタフェースとして機能する。ハードディスク装置16は、各種のアプリケーションソフトのプログラムなどを記憶する。フレキシブルディスクドライブ17は、フレキシブルディスクの内容を読み出す。操作部18は、複数の操作スイッチを具備して構成されている。表示部19は、CRTや液晶表示器などによって構成されている。インタフェース15は、多機能周辺装置2のインタフェース25とケーブル31を介して接続されており、たとえばRS-232Cなどの規格に基づいて、パーソナルコンピュータ1と多機能周辺装置2との間のデータの送受信を制御する。

【0018】多機能周辺装置2は、前記インタフェース25を有する以外に、CPU21、RAM22、ROM23、ゲートアレイ24、スキャナ26、プリンタ2

7、およびモデム28を有している。CPU21、RAM22、ROM23、ゲートアレイ24、およびインタフェース25は、バス線により相互に接続されている。

【0019】CPU21は、多機能周辺装置2の全体を制御する。RAM22およびROM23は、多機能周辺装置2の各部を制御するためのデータやプログラムなどを記憶する。ゲートアレイ24は、スキャナ26、プリンタ27、およびモデム28の各々とCPU21との間のインタフェースとして機能する。スキャナ26は、原稿の画像を読み取って画像信号に変換する。プリンタ27は、画像データを所望の記録紙にプリントアウトする。モデム28は、ファクシミリ通信を実行可能なものであり、ファクシミリ通信の送受信に際して、送信データにより搬送波を変調し、また受信搬送波を復調して受信データを取り出す。このモデム28は、電話回線などの通信回線32と接続されている。

【0020】パーソナルコンピュータ1のハードディスク装置16には、OSに加え、多機能周辺装置2のモデム28を利用したファクシミリ通信を行わせたり、パーソナルコンピュータ1で作成した文書や画像をプリンタ27を用いてプリントアウトさせたり、あるいはスキャナ26を用いて読み取らせた原稿の画像信号をパーソナルコンピュータ1に取り込んだりという、各種の機能を実現するための種々のアプリケーションソフトがインストールされている。これらのアプリケーションソフトは、フレキシブルディスクドライブ17にフレキシブルディスクを挿入して操作部18で所定の操作を行うことにより、ハードディスク装置16にインストールされる。

【0021】OSおよびアプリケーションソフトの内容を更に詳細に説明すると、先ずOSは、ファクシミリ通信処理をプロセサ11によって実行させるときにたとえば後述する第1のファクストドライバbのプログラムをプロセサ11に選択させる旨の内容の第1のドライバ設定用プログラムAを含んでいる。従って、本実施形態では、第1のファクストドライバbがデフォルトのファクストドライバとなる。

【0022】アプリケーションソフトの具体例としては、後述するイメージエディタa、第1のファクストドライバb、第2のファクストドライバc、第2のドライバ設定用プログラムd、第3のドライバ設定用プログラムe、および第4のドライバ設定用プログラムfがある。また、これら以外にも、プリンタ27を駆動するためのプリンタドライバや、スキャナ26を駆動するためのスキャナドライバなど、様々なアプリケーションソフトがある。

【0023】アプリケーションソフトのプログラムの各々には、そのプログラム内容を示すインデックスが付されており、プログラムの内容をプロセサ11が識別できるようにになっている。具体的には、図2に示すように、

前記第1のファクストドライバbや第2のファクストドライバcなどのファクストドライバのアプリケーションソフトのプログラムN1には、“ファクストドライバ”のインデックスIaが付されている。このインデックスIaは、文字データ（フォントコードのデータも含む）によって構成されている。また、以下同様に、プリンタドライバのアプリケーションソフトのプログラムN2、N3には“プリンタドライバ”のインデックスIb、Icが、更にスキャナドライバのアプリケーションソフトのプログラムN4には“スキャナドライバ”のインデックスIdが付されている。

【0024】イメージエディタaは、ファクシミリ通信やプリンタ出力などの対象となる画像データの編集処理をプロセサ11に実行させるためのプログラムである。第1のファクストドライバbは、プロセサ11にファクシミリ通信動作に必要なデータ処理を実行させるためのプログラムであり、具体的にはモデム28を利用してファクシミリ通信を実行するときに必要な制御コマンドのデータの生成や2値化されている画像データの符号化や復号化処理などをプロセサ11に実行させる。第2のファクストドライバcは、第1のファクストドライバbと同様にプロセサ11にファクシミリ通信動作に必要なデータ処理を実行させるためのプログラムであるが、第1のファクストドライバbとは異なったプログラム内容である。本実施形態における第2のファクストドライバcは、多機能周辺装置2を利用したファクシミリ通信を実行するときにデフォルトの第1のファクストドライバbよりも好ましい処理が行えるようにプログラミングされたものである。

【0025】第2のドライバ設定用プログラムdは、ファクシミリ通信処理を実行するときに、前記第1のファクストドライバaに代えて前記第2のファクストドライバbをプロセサ11に選択させる旨を指令する内容のプログラムデータを有している。第3のドライバ設定用プログラムeは、前記第2のドライバ設定用プログラムdに基づいてプロセサ11が第2のファクストドライバbの検索処理を実行したにも拘わらず、この第2のファクストドライバbがハードディスク装置16に記憶されていないなどの理由により、この第2のファクストドライバbを検索できなかった場合に、“ファックス”の文字を含むインデックスが付されているドライバのプログラムをプロセサ11によって検索させてから、そのプログラムをプロセサ11に選択させる内容のプログラムデータを含んでいる。

【0026】第4のドライバ設定用プログラムfは、第2のドライバ設定用プログラムdや第3のドライバ設定用プログラムeに基づいてプロセサ11がファクストドライバの選択処理を行った場合には、その処理を行った旨のデータと、選択されたファクストドライバを識別するためのデータとを、ハードディスク装置16に記憶さ

せて、ドライバ選択の履歴管理を行うための処理をプロセサ11に実行させるプログラムデータを含んでいる。また、この第4のドライバ設定用プログラムfは、プロセサ11がファクシミリ通信処理を実行する場合に、前記ハードディスク装置16に記憶されているデータを予めプロセサ11に参照させることにより、以前にファックスドライバの選択処理がなされているか否かを判断させるプログラムデータも有している。そして、この第4のドライバ設定用プログラムfは、前記判断の結果、以前にファックスドライバの選択処理がなされている場合には、以前に選択されたファックスドライバをプロセサ11によって優先的に選択させる処理を実行させる一方、これとは逆に以前にファックスドライバの選択処理がなされていない場合には、第2のドライバ設定用プログラムdに基づいたファックスドライバの選択処理をプロセサ11に実行させる内容のプログラムデータをも含んでいる。

【0027】次に、上記構成のパーソナルコンピュータ1と多機能周辺装置2とを用いてファクシミリ通信を行う場合におけるパーソナルコンピュータ1の具体的な動作手順の一例について、図3に示すフローチャートを参照しながら説明する。

【0028】まず、パーソナルコンピュータ1の操作部18においてファクシミリ通信を実行する旨の特定のスイッチ操作がなされると(S1: YES)、プロセサ11は以前にファックスドライバの選択がなされたことがあるか否かを判断する(S2)。この判断は、ハードディスク装置16に記憶されたドライバ選択の履歴管理用のデータをプロセサ11が参照することにより実行される。パーソナルコンピュータ1を用いたファクシミリ通信が初めて実行される場合には、ファックスドライバを以前に選択したことはないものとプロセサ11によって判断されることとなる(S2: NO)。すると、この場合には、その後プロセサ11は、ハードディスク装置16に記憶されている各種のプログラムの中から、第2のドライバ設定用プログラムdによって指定されている第2のファックスドライバcを検索する処理を実行する(S3)。

【0029】ハードディスク装置16に第2のファックスドライバcが記憶されていれば、この第2のドライバcがプロセサ11によって検索されることとなり(S4: YES)、プロセサ11はこの第2のファックスドライバcを選択する(S5)。次いで、プロセサ11は、第2のファックスドライバcを選択した旨、および選択したドライバが第2のファックスドライバcであることを識別するためのデータをハードディスク装置16に記憶させてから(S6)、第2のファックスドライバcのプログラムに基づいたデータ処理、すなわちファクシミリ通信処理を実行する(S7, S8)。

【0030】既述した通り、第2のファックスドライバ

cは、多機能周辺装置2を利用したファクシミリ通信処理に最適なプログラム内容であるから、適切なファクシミリ通信が実行できることとなる。また、このような一連の処理によれば、OSの第1のドライバ設定用プログラムAでは、前記第2のファックスドライバcとは異なる第1のファックスドライバbを選択する旨の指示があるにも拘わらず、多機能周辺装置2を利用したファクシミリ通信処理に最適なプログラム内容の第2のファックスドライバcが自動的に選択されることとなるために、オペレータが操作部18をわざわざ操作して第2のファックスドライバcを選択するような手間が省け、パーソナルコンピュータ1の使い勝手も良好となる。

【0031】一方、前記とは異なり、何らかの事情により、ハードディスク装置16に第2のファックスドライバcのプログラムが記憶されておらず、プロセサ11によって第2のファックスドライバcのプログラムを検索することができない場合がある(S4: NO)。この場合には、プロセサ11は、ハードディスク装置16に記憶されている各種のプログラムの中から、“ファックス”の文字を含むインデックスが付されているドライバを検索する処理を開始し(S12)、該当するドライバがあれば、そのドライバを選択する(S13: YES, S14)。ここで、“ファックス”の文字を含むインデックスが付されているドライバとは、ファックスドライバに他ならず、結局、プロセサ11は前記検索処理によって、ハードディスク装置16に記憶されているファックスドライバのプログラムを選択することとなる。本実施形態では、たとえば第1のファックスドライバbが選択されることとなる。

【0032】このようにして、プロセサ11によってファックスドライバが選択された後には、その後プロセサ11はその旨のデータをハードディスク装置16に記憶させてから、前記選択されたファックスドライバのプログラムに基づいたデータ処理を実行する(S7, S8)。このような処理によれば、第2のドライバ設定用プログラムdによって指定されている第2のファックスドライバcがパーソナルコンピュータ1にインストールされていない場合には、これの代替となるファックスドライバが選択されることとなり、この選択されたファックスドライバが多機能周辺装置2に適合する限りはファクシミリ通信を実行することが可能となる。むしろ、パーソナルコンピュータ1にファックスドライバが一切インストールされていない場合には(S13: NO)、ファクシミリ通信処理は実行されないこととなる。

【0033】次いで、上述した何れかの第1回目のファクシミリ通信処理が終了した後に、第2回目のファクシミリ通信処理を実行する場合には、S2のステップにおいてYESとなる。そして、この場合には、プロセサ11は以前に選択したファックスドライバを検索し(S9)、その検索対象のファックスドライバがあれば(S

10: YES)、そのファックスドライバを選択した後、そのファックスドライバのプログラムに基づいたデータ処理を実行する(S11, S6~S8)。従って、第1回目のファクシミリ通信処理時において、第2のファックスドライバcが選択されていた場合には、第2回目のファクシミリ通信処理時においても第2のファックスドライバcに基づいた適切なデータ処理がなされる。

【0034】尚、上記実施形態では、多機能周辺装置2のモデム28を利用したファクシミリ通信処理を実行する場合を一例として説明したが、本発明はこれに限定されない。本発明では、たとえばプリンタ27を用いて画像データのプリントアウト処理を実行する場合において特定のプリンタドライバに基づいた処理をプロセサ11に実行させる場合、あるいはスキャナ26を用いて原稿画像の読み取り動作処理を実行させる場合において特定のスキャナドライバに基づいた処理をプロセサ11に実行させる場合など、様々な機器の制御動作を実行する場合に適用することが可能である。

【0035】その他、本発明に係る情報処理装置は、パーソナルコンピュータに限定されず、各部の具体的な構成は種々に設計変更自在である。また同様に、本発明に係る記憶媒体は、フレキシブルディスクに限定されず、たとえばCD-ROMなどであってもよいことは言うまでもない。

【0036】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1に記載した発明の情報処理装置によれば、所望の機器の動作制御を制御手段によって実行させる場合に、記憶手段に記憶されている第1のドライバ設定用プログラムによって制御手段が第1のドライバ(デフォルトのドライバ)を選択するように設定されている場合であっても、第2のドライバ設定用プログラムによって前記制御手段に前記第1のドライバとは別の第2のドライバを選択させることができる。しかも、このように制御手段が第2のドライバを選択する動作は、以前にそのドライバを選択した履歴があるか否かには関係なく行わせることができる。従って、第1のドライバよりも第2のドライバを用いる方が前記所望の機器の動作制御に適するような場合に、オペレータがスイッチ操作によって第2のドライバを選択する操作をわざわざ行うような必要がなくなる。その結果、ドライバを選択設定するための手間を少なくし、情報処理装置の使い勝手を従来よりも良好にできるという格別な効果が得られる。

【0037】とくに、請求項2に記載した発明の情報処理装置によれば、第2のドライバのプログラムが記憶手段に記憶されていないなどの理由により、制御手段が第2のドライバのプログラムを選択できない場合には、第2のドライバのプログラムに代えて、これとは別の所望の機器の動作制御に有用な他のドライバを制御手段に選択させてから、所定の動作制御を実行させることが可能となり、一層便利である。

【0038】請求項3に記載した発明の記憶媒体によれば、その内容をパーソナルコンピュータなどにインストールすることにより、請求項1に記載の情報処理装置を実現することができる。

【0039】請求項4に記載した発明の記憶媒体によれば、その内容をパーソナルコンピュータなどにインストールすることにより、請求項2に記載の情報処理装置を実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る情報処理装置の具体例としてのパーソナルコンピュータと、これに接続された多機能周辺装置とのハード構成、およびパーソナルコンピュータの記憶手段にインストールされるプログラムの内容の一例を示す説明図である。

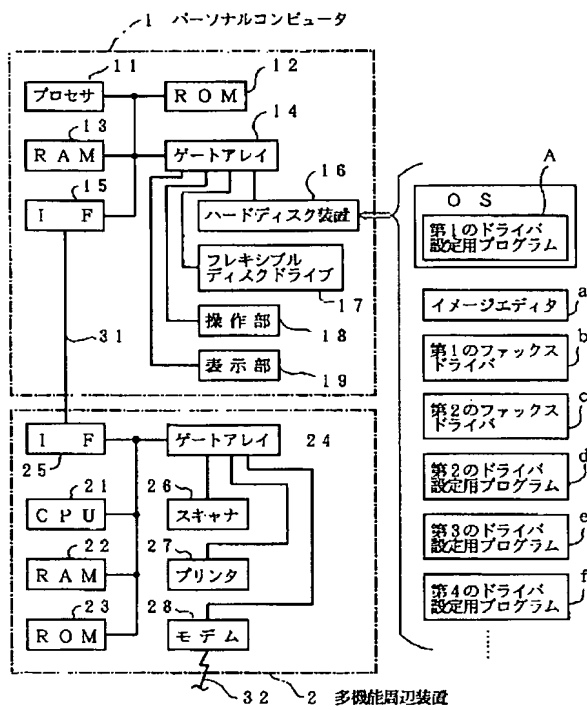
【図2】ハードディスク装置に記憶されるアプリケーションソフトのインデックスの概念を示す説明図である。

【図3】図1に示すパーソナルコンピュータにファクシミリ通信処理を実行させる場合の動作手順の一例を示すフローチャートである。

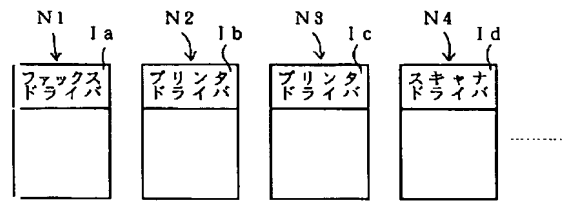
【符号の説明】

- 1 パーソナルコンピュータ(情報処理装置)
- 2 多機能周辺装置
- 11 プロセサ(制御手段)
- 16 ハードディスク装置(記憶手段)
- 17 フレキシブルディスクドライブ
- 18 操作部
- 26 スキャナ
- 27 プリンタ
- 28 モデム
- A 第1のドライバ設定用プログラム
- b 第1のファックスドライバ(第1のドライバ)
- c 第2のファックスドライバ(第2のドライバ)
- d 第2のドライバ設定用プログラム
- e 第3のドライバ設定用プログラム

【図1】



【図2】





【図3】

